



教育支援人材認証協会発信。
会員と会員を“つなぐ”
ニュースレター

2018年度 教育支援人材認証協会 シンポジウムを開催しました。



去る10月20日(土)に、平成30年度教育支援人材認証協会シンポジウムが東京学芸大学において開催されました。

今回のシンポジウムは、「教育支援人材の今までとこれから」と題しました。趣旨は、本協会設立10年目を迎え、教育支援人材認証協会のこれまでを振り返り、今後の展望を描く会としました。

まず、当協会運営委員会委員長の鈴木聡より、本協会のこの10年間のあゆみを紹介し、「教育支援人材認証協会の経緯」「現在までの活動状況」そして、「今後の戦略と方向性」の3視点から報告しました。

続いて、「教育支援人材育成のこれまでとこれから」と題したパネルディスカッションを行い、NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構事務局の小山田佳代さんから「市民として教育支援活動」の立場から報告があり、協会は認証を取った方がその後、どのように活動の場を上げていくのか」という問いに対して、外部ネットワークと連携することや認証者同士のネットワークを創りつなげるコーディネーターの育成も主張されました。

続いて白梅学園短期大学教授瀧口優先生には、教育支援人材育成の価値を「白梅学園短期大学」での取り組みを踏まえて紹介いただきました。

学生への講座開講は、小学校、幼稚園、保育園に就職していく際に直接効果があることや、在学中の学生の方々が教育支援人材として教育現場にボランティア活動として参加することを通して地域における世代間交流が実現している姿が報告されました。

パネラーのラストバッター、東京学芸大学准教授小森伸一先生には、当協会が文科省から委託された事業である「青少年体験活動奨励制度」の成果と今後の展望を中心にお話いただきました。(当該委託事業はH25~H29の5年間実施)

自然体験豊富な子どもは、「生活経験」「ボランティア体験」「教養体験」も多く、まさに、「生きる力」「生き抜く力を促進できる」といえます。本事業は昨年度でひとくくりを迎えましたが、現在青少年体験活動奨励制度ワーキンググループを立ち上げ、今後の継続の道を探っていることも報告されました。

シンポジウム後半は、参加してくださった方々と登壇者が2グループに分かれてディスカッションを行い、参加者の皆さんの地域の実態や教育支援の現状が語られ、「今こそ教育支援人材が必要である」という認識がディスカッションを通して伝わりました。

今回のシンポジウムを通して、今までの10年間の歩みが確かめられたと感じています。発足当時の理念を再度確認しながら現代のニーズを問い直し、この協会はこれからもしっかりと進んでいかねばならないことを強く感じました。この10年の歩みを振り返りつつその成果と課題を検証し、ネクスト10年をどのように描いていくのか、今回のシンポジウムを基にみなさんと考え続けていこうと思います。
(文責：鈴木 聡)

目次

2018年度シンポジウム開催	1
認証者の皆様より活動報告	2
ランチより活動報告	3
青少年体験活動	
「子育て支援員研修テキスト」 第2版発刊	
書類審査による「こども支援士」 認証スタート	5

認証者の皆様より活動報告 - 1 -

< 仮称Aさんからの活動報告 >

こどもパートナー認証をお持ちのAさんは公立小学校である学級に入り、学習や生活に支援の必要なお子さんについて個別対応をいらっしゃいます。

気分むらがあるZ君の作品が完成するまで

Zくんは気分むらがあり、最後まで取り組むことが難しい。

Z君の作品は、全体的に暗い色、特に黒の使用が多い。殴り書きのようなタッチ。構成にまとまりがない。今回の絵は、珍しく明るい色が使われていた。展示会の作品に取り組んでいる。絵には真っ赤な塗りつぶしの箇所が画用紙に描かれていた。聞けば山だという。

私はZ君と対話した。「山にはねんねしてる山。死んでしまった山。かっかと活きている山。があるんだけど富士山はどれだろう。」

「富士山は、昔々、かっかとばくはつしていたんだけど、今はねんねしている。富士山はきれいだよね。でも、富士山のおなかは君が描いた赤のように真っ赤に燃えているんだよ。君の絵はそのおなかを描いたのかな。」

じっと聞いていたZ君。なにを思ったか今まで描いた絵をくるりと裏返し山をまた描き始めた。一度描いた絵とは全然違う雰囲気絵である。

頂上はとがった形の真っ赤な色、その下はオレンジおなかには青を二色に使い分けた色彩。空には雲が浮かび、雲の近くにはZくんの好きな黒の彩色があるものの、完成した作品には見事なまとまりが見られた。新しい作品はZ君のメッセージが込められている。大地についた安定感のある構図の中に自分が描かれて楽しそうである。

最初の作品



描き直した作品



< 仮称Bさんからの活動報告 >

こども支援士（アフタースクール）認証をお持ちのBさんは公立学校でPTA同好会「親カフェ」を立ち上げ、同会の代表として活動されています。

PTA同好会「親カフェ」とは

気軽に悩みを話せる居場所で、ゆるいつながりを大切にしています。通常級、通級、支援級のおもたちを分けへだてなく一人ひとりの発達を応援する親の会です。コミュニケーションが苦手な子、こだわりが強く不注意な子、読み書き計算が苦手な子、どの子にも生まれもった特性があります。最近はその様々な枠組みが知られるようになってきました。

当会では話し合いの中で多様性を学び、偏見や差別のない正しい理解を広めます。フラットな関係から生まれる新しいアイデアや前向きな意見を出しあい、学校、地域支援者、行政と共有して地域が温かくなることを願っています。

PTA同好会「親カフェ」を立ち上げて見て・・・

学校を拠点とするしゃべり場が実現し、孤立しがちな親の居場所ができたことに感謝しています。発達途上のおもとも保護者との関わりをどうすればいいかというご相談もあります。すべてのおももが安心して成長するために一緒に悩んでくださること有り難く思います。まず、親が横のつながりを持ち安心することが第一と実感しています。

認証者の皆様より活動報告 - 2 -

＜ 仮称Cさんからの活動報告 ＞

こどもサポーター（読み聞かせ）認証をお持ちのCさんは特別支援学校での読み聞かせを週1回で行っています。

まず、参加のきっかけですが、たまたま知り合いの方が支援学校の読み聞かせに参加していて、その方に紹介していただいて、見学させてもらいました。

その後、代表の方に参加したい旨をお話しさせていただき現在に至ります。

活動は、毎週水曜日に行っています。

中学部、高等部の生徒さんは自由参加で図書室に来てもらって、読み聞かせをします。だいたい4～5冊を2人ないし3人で読みます。その後、小学部に移動して、読み聞かせをします。小学部は全員参加で、先生もいらっしやいます。なかなか落ち着いて聞くことができなかつた子供たちが1年、2年と学年が上がってくると集中できるようになって、反応もよくなります。読み聞かせの時間を通して、子供たちの成長を見ることができるのが一番嬉しいことです。これからも出来る限りこの活動を続けていこうと思っています。

ランチより活動報告 - 1 -

鳴門教育大学からの報告

子どもとかかわるための教育支援人材養成講座—こどもパートナー講座—

9月15日（土）、鳴門教育大学教授スキル演習室において、「子どもと関わるための教育支援人材養成講座—こどもパートナー講座—」が開催されました。

講座は ①支援者の在り方、②支援を要する子どもへの対応、③子どもを取り巻く環境、④向き合い方という内容で実施され、鳴門教育大学の講師に加え、徳島県教育委員会統括社会教育主事による講義も行われました。

参加者からは、「現場の経験談がたくさん聞けた」「明日からの仕事の参考にしていきたい」などの声が寄せられ、充実した講座になりました。また、本講座ではサテライトシステム（遠隔）を活用し、阿南市と美馬市の会場に配信しています。



こどもサポーター（読み聞かせ）養成講座

9月29日（土）、鳴門教育大学人文棟6階において、「こどもサポーター（読み聞かせ）養成講座」が開催されました。

こどもサポーター（小学校外国語活動担当者・支援員）養成講座

10月27日（土）、28日（日）、鳴門教育大学教授スキル演習室において、「こどもサポーター（小学校外国語活動担当者・支援員）養成講座」が開催されました。

2020年度から教科となる小学校5、6年生の外国語科、それに伴い小学校3、4年生で始まる外国語活動の目的や内容について、新学習指導要領を用いて解説されました。



ランチより活動報告 - 2 -

札幌大学からの報告

札幌大学こどもパートナー講座認証者 第7回交流会

10月10日(水)西岡児童会館で、「一般社団法人 教育支援人材認証協会」認証講座「こどもパートナー講座」の認証者を対象に「こどもパートナー講座認証者交流会～ボランティア体験 風船で遊ぼう!～」を実施しました。

参加した認証者1人と地域ボランティア6人は、西岡児童会館を利用する約40人の小学生へ色とりどりの風船で「剣」と「ジャンピングねずみ」の作り方を一人ずつ丁寧に教え一緒に作りました。また、出来上がった剣とねずみで小学生とおもいきり遊びました。参加者と地域の方は小学生への放課後サポートボランティアを通して楽しく異世代でのボランティア交流を体験することができました。



ランチより活動報告 - 3 -

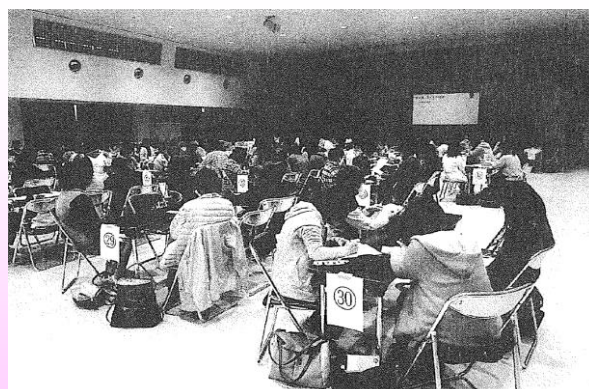
中国学園大学からの報告

備中こどもサポーター育成講座

備中こどもサポーター育成講座を平成30年5月～12月にかけて計7回実施しました。

この講座は第1, 2回が「こどもパートナー」取得必須領域、第3～6回が「こどもサポーター」必須領域で構成しています。参加人数は合計で881名でした。(1講座100～150名)

当講座は、井原市、矢掛市、浅口市、笠岡市、里庄町と連絡協議会を設け、各自治体の教育委員会や福祉課(子育て支援課)等の行政担当者が事務局となって運営されています。



青少年体験活動

平成30年度「青少年体験活動」修了者は、ジュニア版（小学生～中学生）88名、シニア版（高校生以上）42名の計130名でした。

表彰式は、3月10日（日）、東京学芸大学において行われました。

表彰式では、修了者を代表して小学生2名、中学生1名からの活動紹介（報告）があり、修了者全員に修了証の授与が行われました。

「子育て支援員研修テキスト 第2版」 （中央法規出版）を発刊しました。

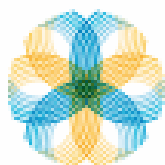
平成27年度厚生労働省調査研究事業「子育て支援員研修の充実に関する調査研究事業報告書」における、『標準的な履修・指導内容の教材例』を底本とした、総合的なテキストの第2版が発刊されました。第2版では、保育所保育指針の改正や新たな統計情報などを踏まえ、内容を更新いたしました。

書類審査によるこども支援士認証スタート

平成31年度4月より、2年間限定で、書類審査による「こども支援士」の認証を行うことになりました。

「こども支援士」の認証取得のための講座（30時間）は、受講者が時間的、経済的に限られてしまっている実態もあり、当協会は、「こども支援士」の社会的な認知を研究者、教員、保育者や実践家の世界にも積極的に広めたいと考え、当協会と連携して活動する「日本子ども支援学会」と協力して、学会に入会を希望する者で、当協会の「こども支援士」の認証を希望する場合、書類審査により、「こども支援士」の資格を付与する制度を新たに設けることとしました。

今年度の募集期間は2019年4月から2019年6月30日までです。



一般社団法人
教育支援人材認証協会
Japan Association for Certifying and Training Educational Specialists

発行：一般社団法人教育支援人材認証協会 事務局
東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学内
お問合せ：TEL&FAX：042-326-7605
Mail：info@jactes.or.jp
HP：http://www.jactes.or.jp